

## 「危機の時代」にあって

### 過去と未来をつなぐために

### 〈今ひとたびの震災の年に〉

人間科学研究所所長

川田都樹子

令和六年は、その年頭一月一日に石川県能登地方を震源とする能登半島地震という災厄に見舞われました。この度の震災でお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された全ての皆様に心よりお見舞いを申し上げます。また、被災地域の皆様の安全確保と被災された皆様の暮らしが一日も早く平穏に復することを祈り申し上げ、被災者の救済と被災地の復興支援のために尽力されている方々に深く敬意を表します。

思い返せば、人間科学研究所の起源は、阪神・淡路大震災を機に設立された文学部人間科学科の教員が中心となって、文部科学省学術フロンティア推進事業に応募して採択された研究事業でした。そして、震災後に展開された「心のケア」の実践を礎に、「心の危機」をキーワードとする学際的研究プロジェクトとして出発いたしました。今ひとたびの震災の年に、人間科

学研究も初心に帰り、この危機の時代において何が出来るのか、何を為すべきか、過去と未来をつなぐために真摯に考えて参りたいと存じます。

人間科学研究所では、二〇二〇年度より開始いたしました研究事業「Phase 6: 過去と未来をつなぐ危機の乗り越えに向けて」を次年度も継続することにいたしました。従来は、獲得した外部資金の研究期間や、所長の任期にあわせてPhaseを改めて参りましたが、今期は「KONAN U. VISION 2025 (甲南新世紀ビジョン)」と同期させ、現在進行中のPhase 6を二〇二五年度まで継続して参ります。

「KONAN U. VISION 2025」とは、二〇一九年に創立百周年を迎えた甲南学園が、二〇二五年にどうありたいかを提示した、次の三つの目標です。

vision 1: ミディアムサイズ総合大学の利点を生かした人物教育をより強力に推し進め、予測不可能な時代を「正志く、強く、朗らかに」生き抜く人物を育むことにより確固たる信頼を得る大学になる。

vision 2: 世界に通用する研究力と地域社会の発展に資する共働互助の力を教育に生かし、人物の育成と社会貢献を通じてよりよい社会の実現に持続的に貢献する大学になる。

vision 3: つなげる力・つながる力を生かして絶えず革新を重ね、時代の変化のなかでも強靱かつしなやかに進化し続ける質

の高い大学になる。

そして、学園内の各部署がこの甲南新世紀を担うべく、二〇二五年に向けた各々のビジョンを掲げました。それが、各部署の「KONAN U. VISION 2025」です。人間科学研究所のビジョンは、以下の通りです。

vision 1: 心理学実践・研究と人文・社会諸科学の協働という共同研究体制をさらに充実させ、関連領域に関する情報を整理集積して常に広く公開し、研究者や実践家をはじめとする専門家の情報ネットワークの拠点になる。

vision 2: 心理学を中心とした人文・社会諸科学の協働により、予測不可能な時代を読み解き、危機を生き延びるための教育・研究の連携拠点になる。

vision 3: 「子ども・子育て」「次世代育成」を主軸とした研究・教育の拠点として、研究者の連携、地域連携、世代間交流を促進し、地域とともに発展していることで知られる研究所になる。

vision 4: 人間科学に関する特色ある高度な研究成果を学生教育に反映させることで、「正志く、強く、朗らかに」生き抜く人物の教育に貢献する研究所になる。

人間科学研究所は、このビジョンの実現に向けて文学部人間科学科教員の研究課題を反映させながら、文学部の各学科ももちろんのこと、大学内の研究者の研究主題を「人間科学」の概

念のもとに東ね、活性化し、学内外に発信していく機能を果たしてまいりたいと存じます。甲南大学が持つ「人文・社会科学」から「自然科学」までの研究機能の連携を図り、教育、地域連携にも引き続き貢献していく所存です。

また、甲南大学では、本学が持つ創造力、融合力、総合力を生かし、チャレンジングなアイデアを積極的に推進・展開するプロジェクトを「KONANプレミア・プロジェクト」として推進していますが、人間科学研究所では、次の二つのプロジェクトが採択され遂行中です。

(1) KONAN 研究力展開プロジェクト：『ひょうご子ども・子育て未来プラン』連携研究教育プロジェクト（二〇一五年度から継続中）

(2) KONAN 研究力展開プロジェクト：『EXPO'70 アート・ドキュメンタリー映画『アコを探して』製作プロジェクト』（二〇二三年度新規）

各プロジェクトの詳細は、本紀要『心の危機と臨床の知』において各担当研究員による報告および論文を公開してまいりますので、ぜひ一読下さいますようお願いいたします。

今後とも研究所の活動へのご支援、ご参加をいただけますようどうか宜しくお願い申し上げます。

（かわた ときこ）